

令和4年9月30日

姫路市長 清 元 秀 泰 様

姫路市監査委員 甲 良 佳 司
同 芝 野 稔
同 井 上 太 良
同 竹 尾 浩 司

令和3年度姫路市決算審査意見書の記載内容について（報告）

令和4年8月17日付けで提出した令和3年度姫路市決算審査意見書について、財政分析に係る経常一般財源比率及び経常収支比率の算定方法の変更が、総務省から示されました。

これに伴い、再算定した結果、当該決算審査意見書の記載内容の変更箇所は、下記のとおりとなりますので、報告します。

記

1 変更理由

令和3年度に交付された新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金のうち都市計画税の軽減措置に係る分（136,386千円）について、「経常的・一般財源等」から「臨時的・一般財源等」に計上することになり、経常一般財源収入額が変更になったため。

	変更前	変更後
経常一般 財源比率	$\frac{133,966,083 \text{ 千円}}{127,239,020 \text{ 千円}} = 105.3\%$	$\frac{133,966,083 \text{ 千円} - 136,386 \text{ 千円}}{127,239,020 \text{ 千円}} = 105.2\%$
経常収支 比率	$\frac{111,888,228 \text{ 千円}}{133,966,083 \text{ 千円}} = 83.5\%$	$\frac{111,888,228 \text{ 千円}}{133,966,083 \text{ 千円} - 136,386 \text{ 千円}} = 83.6\%$

2 決算審査意見書の変更箇所

別表のとおり

【別表】

ページ	変更前	変更後																								
P 64	<p>イ 経常一般財源比率</p> <p>当年度の経常一般財源比率は <u>105.3%</u>で、前年度に比べ <u>4.1 ポイント</u> 上昇しています。</p> <p>これは、比率算定式の分母となる標準財政規模の増加（前年度比 <u>4,468,373 千円・3.6%増</u>）に比べ、比率算定式の分子となる経常一般財源収入額の増加（前年度比 <u>9,723,661 千円・7.8%増</u>）が上回ったためです。</p>	<p>イ 経常一般財源比率</p> <p>当年度の経常一般財源比率は <u>105.2%</u>で、前年度に比べ <u>4.0 ポイント</u> 上昇しています。</p> <p>これは、比率算定式の分母となる標準財政規模の増加（前年度比 <u>4,468,373 千円・3.6%増</u>）に比べ、比率算定式の分子となる経常一般財源収入額の増加（前年度比 <u>9,587,275 千円・7.7%増</u>）が上回ったためです。</p>																								
P 65	<p>第 4 2 表 経常一般財源比率の推移</p> <p style="text-align: right;">(単位 千円、%)</p> <table border="1" data-bbox="268 1055 826 1424"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常一般財源収入額</td> <td>A</td> <td><u>133,966,083</u></td> </tr> <tr> <td>標準財政規模</td> <td>B</td> <td>127,239,020</td> </tr> <tr> <td>経常一般財源比率 (A/B×100)</td> <td></td> <td><u>105.3</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ 経常収支比率</p> <p>当年度の経常収支比率は <u>83.5%</u>で、前年度に比べ <u>3.7 ポイント</u> 低下し、弾力性が向上しています。</p> <p>これは、比率算定式の分母となる経常一般財源収入額の増加（前年度比 <u>9,723,661 千円・7.8%</u>）に比べ、比率算定式の分子となる経常経費充当一般財源の増加（前年度比 <u>3,600,376 千円・3.3%</u>）が下回ったためです。</p>	区 分		3 年度	経常一般財源収入額	A	<u>133,966,083</u>	標準財政規模	B	127,239,020	経常一般財源比率 (A/B×100)		<u>105.3</u>	<p>第 4 2 表 経常一般財源比率の推移</p> <p style="text-align: right;">(単位 千円、%)</p> <table border="1" data-bbox="863 1055 1422 1424"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常一般財源収入額</td> <td>A</td> <td><u>133,829,697</u></td> </tr> <tr> <td>標準財政規模</td> <td>B</td> <td>127,239,020</td> </tr> <tr> <td>経常一般財源比率 (A/B×100)</td> <td></td> <td><u>105.2</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ 経常収支比率</p> <p>当年度の経常収支比率は <u>83.6%</u>で、前年度に比べ <u>3.6 ポイント</u> 低下し、弾力性が向上しています。</p> <p>これは、比率算定式の分母となる経常一般財源収入額の増加（前年度比 <u>9,587,275 千円・7.7%</u>）に比べ、比率算定式の分子となる経常経費充当一般財源の増加（前年度比 <u>3,600,376 千円・3.3%</u>）が下回ったためです。</p>	区 分		3 年度	経常一般財源収入額	A	<u>133,829,697</u>	標準財政規模	B	127,239,020	経常一般財源比率 (A/B×100)		<u>105.2</u>
区 分		3 年度																								
経常一般財源収入額	A	<u>133,966,083</u>																								
標準財政規模	B	127,239,020																								
経常一般財源比率 (A/B×100)		<u>105.3</u>																								
区 分		3 年度																								
経常一般財源収入額	A	<u>133,829,697</u>																								
標準財政規模	B	127,239,020																								
経常一般財源比率 (A/B×100)		<u>105.2</u>																								

P 66	第 4 3 表 経常収支比率及びその内訳の推移 (単位 千円、%)			第 4 3 表 経常収支比率及びその内訳の推移 (単位 千円、%)		
	区分		3年度	区分		3年度
経常経費充当 一般財源 A		111,888,228	経常経費充当 一般財源 A		111,888,228	
経常一般財源 収入額 B		<u>133,966,083</u>	経常一般財源 収入額 B		<u>133,829,697</u>	
経常収支比率 (A/B×100)		<u>83.5</u>	経常収支比率 (A/B×100)		<u>83.6</u>	
内 訳	人件費	24.2	略	人件費	24.2	
	扶助費	13.3		扶助費	13.3	
	補助費等	6.3		補助費等	6.3	
	物件費	13.4		物件費	13.4	
	維持補修費	0.7		維持補修費	0.7	
	公債費	15.1		公債費	15.1	
	投資及び出資金 ・貸付金	0.0		投資及び出資金 ・貸付金	0.0	
	繰出金	10.4		繰出金	10.4	
中核市平均		—	中核市平均		—	

<p>P80</p>	<p>◇財政指標</p> <p>財政分析の数値を見ると、財政基盤の強さを示す財政力指数については、前年度に比べ 0.015 ポイント低下し0.873、当年度の単年度指数では 0.846 と最近5か年で最も低い数値となっています。</p> <p>財政構造の弾力性を示す経常収支比率については <u>83.5%</u>で、前年度に比べ <u>3.7 ポイント</u>低下し、弾力性が向上しています。</p> <p>また、一般財源のゆとりを示す経常一般財源比率については、前年度の101.2%から <u>105.3%</u>に増加しています。財政の堅実性を表す実質収支比率についても 4.3%とおおむね妥当な範囲内であり、健全性は保たれていると言えます。</p> <p>実質公債費比率は前年度の 2.9%から 3.0%に増加し、実質公債費比率の単年度比率についても 2.5%から 3.2%に増加していますが、良好な水準と言えます。</p>	<p>◇財政指標</p> <p>財政分析の数値を見ると、財政基盤の強さを示す財政力指数については、前年度に比べ 0.015 ポイント低下し0.873、当年度の単年度指数では 0.846 と最近5か年で最も低い数値となっています。</p> <p>財政構造の弾力性を示す経常収支比率については <u>83.6%</u>で、前年度に比べ <u>3.6 ポイント</u>低下し、弾力性が向上しています。</p> <p>また、一般財源のゆとりを示す経常一般財源比率については、前年度の101.2%から <u>105.2%</u>に増加しています。財政の堅実性を表す実質収支比率についても 4.3%とおおむね妥当な範囲内であり、健全性は保たれていると言えます。</p> <p>実質公債費比率は前年度の 2.9%から 3.0%に増加し、実質公債費比率の単年度比率についても 2.5%から 3.2%に増加していますが、良好な水準と言えます。</p>
------------	---	---

P98	第6表 財政分析表				第6表 財政分析表			
	分析項目		3 年度		分析項目		3 年度	
	財政力指数 () 内は単年度の 財政力指数		0.873 (0.846)		財政力指数 () 内は単年度の 財政力指数		0.873 (0.846)	
	経常一般財源比率 (%)	}	<u>105.3</u>	}	経常一般財源比率 (%)	}	<u>105.2</u>	}
	経常収支比率 (%)	略	<u>83.5</u>	略	経常収支比率 (%)	略	<u>83.6</u>	略
	実質収支比率 (%)	}	4.3	}	実質収支比率 (%)	}	4.3	}
	実質公債費比率 () 内は単年度の 実質公債費比率		3.0 (3.2)		実質公債費比率 () 内は単年度の 実質公債費比率		3.0 (3.2)	